

# アイキャンだより

2002年12月  
第29号

## フィリピン支援に参加しよう！

### サンイシロの活動報告

子ども達の教育環境 伊藤 p. 2-3  
奨学生にインタビュー 棚橋 p. 3

### ミンダナオの活動報告

松岡

里親支援 子ども達の近況 p. 4-5

給食支援 今年の活動と来年に向けて p. 5-6

フェアトレード 日本での活動 赤星 p. 7-8

HAPPY NEW YEAR カード 報告 p. 8

### スタディツアー

夏のツアーの感想 齋藤、佐藤 p. 9 - 10

2003年春のツアー参加者募集 p. 11

ありがとう (文具/葉書/レカ) p. 12

会員になって活動を支えよう！！ p. 12

ICAN (アイキャン)  
特定非営利活動法人  
アジア日本相互交流センター



TEL&FAX (052) 582 - 2244

E-mail : ican@jca.apc.org

ホームページ : <http://www.jca.apc.org/ican/>

### 会費と寄付金の振込先

郵便振替) NPO 法人 ICAN , 00850-6-78233

銀行) UFJ 銀行 名古屋駅前支店 普通 2361021

特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター



サンイシロの新しい学校の子ども達



ミンダナオの給食実施校の子ども達

**ミンダナオ里親会員募集！ (P.4-5)**  
**クリスマス&年末年始募金実施中！ (P.12)**

# サンイシロ ～山村の子ども達の教育環境～

伊藤 洋子



カトゥトゥボ・ラーニングセンター開校！

待ちに待ったカトゥトゥボラーニングセンター（カトゥトゥボはタガログ語で先住民の意）という公立の小学校が先住民の多く住むリビス地区に開校されました。この小学校では1年生から3年生までが通っています。町からやってきた男の先生が二人住み込みで教えています。現在、1年生19人、2年生8人、3年生2人が通っています。開校が新学期の6月に間に合わなかったために、今まで通り遠くの小学校に通う児童や、私立の小学校へ通うことにした児童がいるので、今年度は2年生と3年生が少なくなっていました。

しかし、これで雨季に増水した川を渡らずに（川には橋がありません）学校へ通うことができるようになったので、これからもっと多くの子どもたちが学校に通うようになることでしょう。

次に、ICANで応援しているプレスクール（幼稚園）の報告です。

フィリピンでは、規則正しい生活習慣と社会性を身につけ、アルファベットの読み書きを勉強する、就学前教育が非常に重視されています。本来ならば、すでに小学校に入学しているはずの7歳から9歳の子どもたちも、まずは読み書きを覚えるために、こへ通っています。科目も、読み書きのほかに、理科、社会、算数、体育、図工などがあります。テストもあり、ちゃんと成績表もあります。

キンダーには、5歳から9歳の11人の子どもが通っており、フローさんが教えています。静かな子もいれば、うるさい子、がんこな子などさまざまな子どもたちがいるので、大変ですが、いろいろ工夫して、遊びを取り入れたりしながら勉強しているそうです。子どもたちは、すでにアルファベットの読み書きと、1から30まで数えることができるようになりました。これからは、具体物を使った足し算を勉強するそうです。フローさんはいつもはやさしいけれど、時々厳しい先生だそうです。子どもに教えるのは楽しく、自分の知っているいろいろなことを教えたいと思っています。

ナーサリーには、3歳から5歳までの6人の子どもが通っており、レンレンさんが教えています。レンレンさんははずかしがりやさんの子どもたちにやさしく教えてあげているそうです。レンレンさんは11月28日に男の子を出産しました。おめでとうございます。1ヶ月間の産休を取り、1月からまたプレスクールで教える予定です。レンレンさんが産休の間は、フローさんがナーサリーとキンダーの両方で教えることとなります。

11月下旬にマニラ入りし、現地ボランティアとして活動を始めたばかりの棚橋大介さんが、ICANの学費支援を受けているロベリンちゃん(小学校6年生)に会い、サンイシロの小学校生活についてインタビューしました。ご紹介します。

## ロベリン・ベルトゥデスちゃんにインタビュー

棚橋 大介

11月29日、マニラを訪れたサンイシロ在住のロベリンちゃんに会いました。彼女は山村教育支援の対象になっている小学校6年生です。彼女にサンイシロでの小学校生活について聞かせてもらいました。

小学校での1日は朝8時の国旗掲揚(Flag Ceremony)から始まります。2人の男子生徒が旗をポールの上にゆっくりと昇らせている間、他の生徒は国歌をうたい、愛国精神をうたった詩を斉唱します。

授業は8時30分から、10時からの20分間の休み時間をはさんで、11時30分には全ての授業が終わります。(午後からは高校生の授業になるのです)

科目は国語(フィリピン語)、英語、科学、社会、図工、音楽、道徳、運動。ロベリンちゃんの好きな授業は国語です。授業は先生が各学年の教室を順番にまわりながら板書と説明をしていく形式で、先生が教室にいる間はみな静かに聞いているようですが、先生が他の学年の教室に行ってしまうと教室はとたんににぎやかになるそうです。

休み時間の過ごし方についてたずねたら、ロベリンちゃんたちが遊んでいる「シャード」というゲームのことを教えてくれました。色のついた短い棒と長い棒を同時に投げうまくキャッチするゲームで、うっかり失敗して頭に当たったりすると、なかなか痛いということでした。

ところでサンイシロの公立小学校の学年は、実は5年生までしかありません。6年生のロベリンちゃんは奨学金の支援を受けながら私立の小学校に通っているのです。ロベリンちゃんの学年は全部で15人。一緒に登校するなど、下級生の面倒をみることもあります。

学校に行きたいのはなぜ?という質問に「勉強がしたいから」と答えるロベリンちゃん。友達に会えるのも楽しみだとのこと。他の同級生もみな休まずに学校に通ってくるそうです。

ロベリンちゃんからのお便りを、ご紹介します。

日本の友達の皆さん、皆様のご支援に心から感謝しています。私の好きな科目はフィリピン語と体育です。嫌いな科目は算数です。

奨学生になれたことがとても嬉しいです。これからも、私たちを続けてご支援くださいますように。

<<これからも、サンイシロ支援プロジェクトをよろしく願いいたします>>

# ミンダナオでの活動の報告

松岡 亜湖

## 里親支援の子ども達の近況

2002年も残すところあとわずかとなりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか？

11月末現在、里子たちは、近々行われるクリスマスパーティーを楽しみに日々を元気に過ごしていると、現地で里親支援を運用している現地福祉法人Love&Life(以下L&L)のスタッフから便りが届いています。今年も多くの皆様のご協力をいただき、135人の子ども達を支援する事ができました。心より御礼申し上げます。

里親プロジェクトでは、南部ミンダナオのジェネラルサントス市の、経済的な事情から学校に通うのが困難な子ども達に、学費・学用品と制服・交通費・食費・医療費などを提供しています。

また、L&Lの事務員GrecildaさんとソーシャルワーカーのGerlieさんが家庭を訪問したり、年に4回、事務所で懇談会を開いて生活指導もしています。懇談会では、保護者への生活指導をする他、子ども達に文具・制服等を配布したり、一緒に食事やゲームをしたりします。よく子ども達も詩やダンスを発表するそうです。

12月の懇談会は、クリスマス会も兼ねているので、子ども達もひとときわ楽しみにしているということです。



里子のミーティング

しかしながら、子どもたちを取り巻く環境には、厳しいものがあります。ミンダナオの不安定な情勢は、現地の所得の低い家庭に深刻な影響を及ぼしています。子どもを学校に行かせるお金がない、十分な栄養がとれない、子どもや家族が急に怪我や病気になってしまっても、医療費が出せない…。収入が不十分な家庭の子どもたちと家族は様々な悩みを抱えています。

そんな環境に置かれた子どもや家族にとって、日本からの支援は非常に大きな励ましとなっています。支援を受けることで、子どもたちは学校に通い、必要な治療を受けることが可能になります。里子たちの中には、微熱や風邪、虫歯などに悩まされている子もいます。子どもたちは、支援のおかげで学校に通えることをとても感謝しています。「里親がどんな人か知りたいし回りの人にも話したいから、写真やカードがもらえると嬉しい」と話しています。

これからも、皆様のご支援をよろしくお願い致します。

里親の皆さんからのメッセージをご紹介します。日本の里親の方も、フィリピンの里子の成長を心から喜んでみえ、子どもから元気を貰っているようです。

高校生の里親の堀直予さん

里親になって、早くも7年が経ちました。送られてくる写真やカードを見ると、『我が子』が成長していくのが分かります。カードの文章も年々うまくなって、今やこちらの英語力の方が下です！コミュニケーションのためには私も学ばなくては、彼らが学校で楽しく学ぶ姿を想像しては、自分の生きるエネルギーにしています。

小学生の里親の飛田明子さんより

時々私の里子であるチェリーちゃんが頭に浮かんで来て、元気を与えてくれます。チェリーちゃんの写真を友達に見せるとみんな一様に興味を示してくれるのもうれしいです。

## 2003年の支援に向けて、里親大募集！



里子の家族

学習の継続が困難な環境で、よりよい社会、平和な社会を目指して、通学し勉強するミンダナオの子ども達を応援しつつ助けたいと思います。2003年の里親支援では、新たに15名の子ども達を迎え、150名を支援します！現在、2003年の里親を募集中です。皆さんも、里親プロジェクトに参加して、彼らに暖かい励ましを届けてみませんか？

里親プロジェクトをよろしくお願い申し上げます。

## 給食支援 - 今年(02年)活動と来年(03年)に向けて -

ジェネラルサントスの小学校で行われている給食支援は、週に一回、栄養状態の悪い子どもに給食を提供し、就学率の向上と栄養状態の改善をめざしています。ミンダナオ島の不安定な政治情勢や給食支援校の校長先生の異動などの関連で、現地とのやりとりがなかなかかどらず、皆さんへのご報告が遅れましたことをおわび致します。

2002年の1月、Bawing小学校、Sarif Mucsin小学校、P.Kindat小学校(以下BES、SMES、PKES)では、校長先生を中心に先生と保護者・生徒の協力で、給食支援が開始されました。BESとSMESでは、3月までに12回、PKESでは校長先生の入院の影響もあってやや回数が減って6回、給食を実施しました。

フィリピンでは4、5月がお休みで、6月が新学期になります。給食支援校では、先生たちが、新入生も含めた子どもの栄養チェックを行い、給食支援を受ける子どもを決定します。今年は、BESのロルナ校長先生、SMESのジュリエット校長先生が異動したため、

次の校長先生への引継ぎに時間がかかり、両校での給食が本格的に動き出したのは10月になってからでした。新しい校長先生と連携して両校での給食を進めていきます。

新しい学校に異動した先生達は、赴任先でも栄養状態が悪い子どもが多いことを憂慮し、持出して給食をはじめました。そこで、ICANでは、現地の子ども達の栄養状態調査や写真を受取り、協議の上、ロルナ先生が赴任したUpper Tumbler 小学校(以下UTES)、ジュリエット先生が赴任したDadiangas East小学校(以下DEES)でも、10月より給食を支援することになりました。今回は、UTESでの給食についてご報告します。

UTESは、保育園から6年生まで1400人いる大きな学校です。生徒の60%はセブアノ民族ですが、あとの40%はイロンゴ、イロカノ、ティボリなど、様々な少数民族が通っています。1400人という生徒数に対して、教室は23クラス、(3人掛の)机が250脚、という状態で、勉強できる環境がなかなか整わないフィリピンの小学校の状況が表れています。



待ちに待った給食の時間！

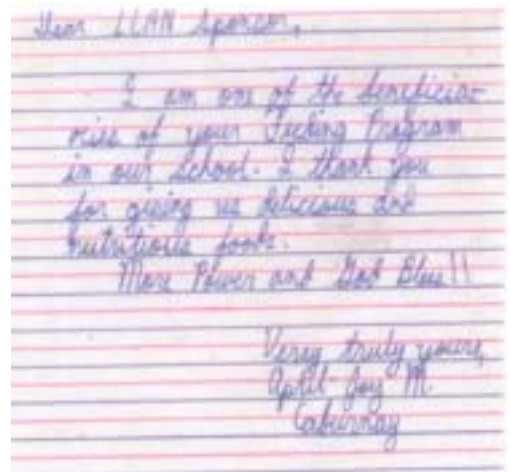
10月23日、初めての給食が実施されました。調理は、栄養士の先生を中心に行い、子ども達もお手伝いしました。屋外に薪を組み、大鍋をかけて、お肉とたっぷりの野菜とをスープにします。出来上がったら、お皿にご飯を盛り、スープをかけて、スプーンで混ぜて食べます。みんなご飯をたくさんとって、おいしそうにほおばっていますね。給食が開始されたことで、先生達もとても喜んでいきます。

子どもたちからお礼状を頂いたので、ご紹介します。

ICANのみなさんへ

わたしは、給食支援を受けています。おいしくて栄養のある食事ができて嬉しいです。皆さんに神のご加護がありますように。

エイプリル=ジョイ=M=カブーナイ



他の給食支援校、BES、SMES、PKES、DEESでも、毎週1回の給食は軌道に乗り、子どもたちに喜ばれています。家庭の収入が不安定なために通学の継続が困難な子ども達、家庭で十分な栄養が取れない子ども達の状況を、これからも給食支援によって改善していきたいと思えます。2003年はより安定して支援を行っていけるように、先生方とのコミュニケーションを密にし、信頼関係を大切にしていきたいと思えます。今後も、ミンダナオの笑顔の愛らしい子ども達に、平等に勉強する機会と栄養のある食事を提供できるよう、給食プロジェクトへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

ICAN・フェアトレードも今年で2年目となりました。扱う商品の種類も増え、店頭での委託販売の他に、インターネットや学校での文化祭、バザー販売と、幅広く販路を開拓してきました。しかし、(残念ながら)売上は少し低迷気味です。1年目の盛り上がりとは裏腹に、2年目リピーターとなって買って下さる方の数が減少しているようです。



一宮市でのバザー風景

そんな中、日本のフェアトレードチームを盛り上げて下さるべく、たくさんのボランティアさんにご協力頂きました。自分でバザーを主催し、商品の搬送を兼ねご自宅から名古屋を何度となく往復された渡辺さん、一点一点商品を説明しながら販売して下さった山北さん、主婦の視線で商品開発に携わって下さった守屋さん、かわいいもの大好き！個人でも販売して下さった飛田さん、ホームページ更新を手がけた花ちゃん、名古屋の委託販売、帳簿・在庫管理はまかせての串田さん、皆さん本当にありがとうございます。

ご紹介したボランティアの皆さんには、「私が売っているのだわ！」という押し付けがましいところはなく、本当に商品を愛し、楽しんで販売して下さったと思っています。私は、例え商品の売れ行きが悪くとも、関わって下さった皆様の気持ちは、どんどん広がって何か大きなパワーに繋がるのではないかと考えています。

課題点も、もちろんあります。大量の受注生産によって、商品の質が落ちてきていること、商品のサイズにばらつきがあること、また、活動を紹介するための情報少なく、資料も整理できていません。精神的なバックアップも大切ですが、具体的に活動が継続するよう考えていかなくてははいけませんね。

先日一時帰国された現地スタッフの伊藤さんの話ですが、今作業所の女性たちは、自分たち以外のもっと貧しい女性を支援したいと希望しているそうです。フェアトレード2期生を募集するってことでしょうか(?)。何とも、頼もしいパヤタスの女性たちです。

ちなみに、ここに参照させていただいたボランティアとスタッフの方々、全て女性なんですよね。私も女性のパワーに圧倒されつつ、皆さんと一緒に事業の舵取りを担っていきたいと思います。(もちろん、男性の方の参加もWELCOM!です)。

さて、名古屋から遠く三重・四日市から来て下さっているボランティアの花房さんからの感想を掲載します。

「仕事を持ちながらのボランティア。しばらく事務所に行っていないと、次には見たこともない新商品を発見することがあります。パヤタスの女性たちの商品開発意欲にいつも驚かされます。特に最近のぬいぐるみ類のかわいさに、まるで親ばかのような愛情を感じている自分を発見する時があります。」

「フェアトレードという支援の形態は、支援活動ではあるけれど、日本とマニラが、より

対等な立場にある活動だと感じています。私自身、いわゆる「恵まれない」人たちを助けているというような意識はあまりなく、商品が好きで、作っている人たちの気持ちを感じられるからこそ、「みんな買ってくれないかな。」と思います。そういう点がフェアトレードのよい点だと思っています。最近、フェアトレードSHOP アイキャンのホームページを更新しました。皆さん是非ご覧下さい。」



アドレスは、こちらから。アクセスお待ちしております！

ICANフェアトレードショップ：[http://www.jca.apc.org/ican\\_mnl/fairtrade/](http://www.jca.apc.org/ican_mnl/fairtrade/)

### <Happy New Year Card キャンペーンご報告>

給食プロジェクトの対象校、P.Kindat 小学校、Bawing 小学校と Sarif Mucsin 小学校の子ども達を Happy New Year カードで励ますキャンペーンにご協力くださいました皆さん、ありがとうございました。おかげさまで、791通ものカードを送ることができました！子どもたちにとっても大きな励ましとなるでしょう。心から感謝申し上げます。

#### 【ご協力いただいた皆様】

千枝さん、山崎さん、石堂さん、よこやまさん、江澤さん、石田さん、竹下さん、西田さん、石川さん、信清さん、伊藤さん、加畑さん、藤元さん、白山中学校の皆さん、福澤さん、和光国際高校の皆さん、渡辺さん、白子高校の皆さん、滝さん、斉藤さん、安立さん、三宅さん、上原さん、久保さん、関さんとご家族の皆さん、黒瀬さん、亀岳中学校の皆さん、椿さん、五十島さん、猪瀬さん、犬飼さん、松村さん、藤山さん、林さん、元橋さん、安城南高校の皆さん、小坂井高校の皆さん、GAIAの会の皆さん、神部さん、高橋さん、岸本さん、中津北高校の皆さん、長尾中学の皆さん

【集まったカンパ】45,070 円

ご協力ありがとうございました

### ご協力ありがとうございます。 <2002年8月～2002年11月>

#### <文房具> フィリピンの子供達への贈り物にしました！

両小野中学の皆さん、守山西中学の皆さん、加木屋中学の皆さん、兼近さん、石堂さん、小坂井高校の皆さん、小浜LCの皆さん、小浜中学の皆さん、若狭高校の皆さん、小松さん

【集まったカンパ】74,753 円

#### <商品券> 福富さん、小浜LCの皆さん、門屋さん、黒澤さん

【集まったカンパ】30,500 円

#### <書損じ葉書> 山村部(サンイシロ)の子供達の奨学金となります。

伊藤(し)さん、松浦さん、小熊さん、小坂井高校の皆さん、小浜LCの皆さん、若草さん、青山文庫の皆さん、亀山高校の皆さん、高島さん、匿名

【集まったカンパ】57,995 円 相当

#### <未使用テレカ> 現地小学校での給食費用になります。50度数1枚で20人分の食費！

長町さん、増崎さん、小坂井高校の皆さん、小浜LCの皆さん、若草さん、一新さん、丹羽さん、後藤さん、高橋さん、佐川さん、黒澤さん

【集まったカンパ】74,750 円 相当

#### <その他> 映画「神の子」上映会にて、8,620 円のカンパをいただきました。



## 2002年夏のスタディーツアーの感想

### パヤタスが私に与えた課題

齋藤理奈

フィリピン・パヤタスへ私を導いてくれたのは映画「神の子たち」と偶然新聞や冊子で紹介されていた伊藤さんでした。映像や記事を通してもっていた私のパヤタスに対する印象は”現在の地球が抱えるすべての問題(環境・貧困問題等)が凝縮されている場所”という非常にネガティブなものでした。そのためとにかく現地へ行ってゴミ捨て場でごみを拾って生活をしている人々、そしてその人々のために長年支援活動をされている伊藤さんに出会い、現状を知り、具体的な支援活動のみで私自身が今後活動をしていく上での指針を得たかったです。またただ見て、会うだけでなく、感じて、人々と話をし、自分の頭で考えて、私にも何かできると確信して行動に移していけるようなきっかけになるそんな旅にしたかったです。



実際、パヤタスとあのごみ山に車が近づくにつれて私はかなり興奮していました。その興奮とは来たかった所に今来ているというものともう一つ自分がこれから直面する現実に対する緊張感だったように思います。

まず到着後、車から降りたときのおいには想像はしていたけれどもやはり一瞬息を止めてしまうほどでした。すぐに慣れましたが、雨季にはもっとひどいにおいがしていると聞き、早速皆の健康が気になりました。そしてごみ山に登ったときは「これはどうすることもできない」と嘆くと同時に足元のごみが宝物にも見えてきたのです。

すごく自分でも不思議な感情で、ごみを拾って現金を得て暮らしていけるなら良いと考えたわけではなくおそらくその場では目の前で沢山の人が生きていくためにごみを拾っているという状況をどう捉えてよいのかわからなかったのだと思います。

「ICAN」と「SALT」が行っている支援プログラムは私の中で非常に漠然としていた「国際協力」「支援活動」というものが大変リアルにそして自分にもできる形があるかとも思えるようなそんな生活に根ざした活動が非常に印象的でした。すべてのプログラムを見せていただいた後、ふといつだったか伊藤さんがおっしゃっていた「外国人にできることってなにもない。でも外国人だからこそできることがある」という言葉には非常に説得力を感じました。

パヤタスでは生活環境の改善や子ども達の栄養面での充実等がまだまだ必要であるように感じましたが、今後は教育面が充実していくとよいとも思っています。とにかくパヤタスの人々が明るい。常に音楽が鳴り響き、それに合わせて人々が踊り、歌い、笑うという底抜けの明るさにふとここでの問題を抱えた暮らしぶりを忘れてしまいそうなくらい圧倒されていましたがあの明るさには「国民性」という一言では片付けられない人々の隠れた影があるようにも思えることがありました。でも私は決して悲観しているわけではなくそんな彼らに力強ささえ感じています。だからこそいっしょに問題を解決していくカギがあるとも思います。

”ハロハロ”のフィリピンから”モノ”の日本に戻った今、ツアーの最終日に伊藤さんがおっしゃった言葉の一つ「世界を変えたければ自分が動かなければ変わらない」と田村さんがおっしゃった「見た責任をとる」この言葉を胸にできる限り同じ地球上で苦しい思いをしている人々に心を寄せ、どんなに小さなことからでも問題解決のための行動をしていきたいと考えています。今回の旅でのおのずとメインテーマとなっていた「格差」。ツアー日程がたつにつれて日本では感じられないフィリピン国内の社会的格

差はさることながら日本とフィリピンの格差・先進国と開発途上国との格差を感じずにはられません  
でした。この格差を少しでもうめるにはどうするべきか？そしてパヤタスの人々が貧困のサイクルから  
抜け出すにははたしてどうすればよいのか？

これらを今後も私なりに考え、パヤタスの友達を大切にしていけることがツアーの目的を達成した私の  
新たな今後の課題です。

## 8月スタディーツアーの感想 佐藤美奈

私がこのツアーで一番心に残っていることは、パヤタスに行ったことです。まず、驚いたことはその中  
でも貧富の差があるということです。ちょっと余裕のある家では(お金を借りて買う人もいと聞きました  
が)テレビ、カラオケセットや冷蔵庫などがありました。子どもたちは、無邪気でとてもかわいかった  
のですが大人になり、現実をみるとドラッグなどをやって不良になる人も多いと聞いてショックでした。  
私がフィリピンに行って思ったことは、日本ではがんばればそれなりに自分に返ってくるけれどフィリ  
ピンでは貧困層の人々にはそういったものがない  
ように感じました。

ホームステイ先のお母さんは私にこう言いま  
した。もともとは漁師をしていたけれど魚の捕れない  
ときもあり、子どもを学校に行かせるためにでて  
きた。私がステイした日は、お父さんが帰ってこ  
なくて、いつ帰って来るのかと聞くと夜勤で遅  
くなる日は近くに兄の家があるからそこに泊  
まると言いました。それだけ働いていて稼  
ぎがあまりないということは日本ではあ  
まり考えられないことだと思います。



栄養改善支援を受けている家庭をツアー参加者で訪問したときに、その家族はゴミ拾いで生活して  
いたのですが、参加者の誰かが、「今の生活と昔の生活と、どちらがいいか」と質問したら、そこのお  
母さんは「今のほうがいい」と答えたのには驚きました。昔その人はメイドをしていたけれど給料はよ  
くないし、偏見もあったので今のほうがいいそうです。でも、一番下の子は栄養失調でとてもいい生  
活環境とはいえません。

バスケットのコートでは一日バスケットをしている若者がいてその一人が自分は毎日ここにきてバスケット  
を見に来て考えてそして家に帰って考えることを毎日していると言いました。仕事はしたいけれどない  
と言っていました。

もうじきゴミ山は閉鎖されて別のところにゴミは捨てられるようになると聞きました。ですが、そこに  
住んで居る人々はどうなってしまうのか心配です。また人々は別のゴミ山に移動するとききましたが、  
私はこのツアーに参加して、自分自身が少し変わったような気がします。

ツアーの中でパヤタスの人々のためになにができるかという質問があったけれど自分自身なにがで  
きるかわかりません。資源の無駄使いなどはしないようにしているのですが、私はもっと直接そうい  
った人々の生活を改善するようなことをしたいと思っています。けれどどうすればいいのかまだわかり  
ません。

またお金が貯まったら、このツアーに参加したいと思います。

## 2003年春のスタディーツアー参加者募集！！

2003年春、フィリピンの、少数民族が生活する山岳農村サンイシロと、マニラ首都圏郊外のパヤタスにあるゴミ処分場などを訪問、農村で暮らす少数民族やパヤタス住民の困難な現状について知り、支援について共に考え、現地住民と交流するスタディーツアーを実施します。



パヤタスの栄養改善プログラム

パヤタスには、高さ30m、広さ16haに及ぶ巨大なゴミの山があります。悪臭と自然発火したゴミの煙の中、約2000人(周辺住民の20%程)が、リサイクルできるゴミを捨てて生計を立てています。

パヤタスでは、住民との交流会や、医療支援・職業訓練支援見学、ゴミ山見学などを行います。

サンイシロは電気も水道もガスもない不便な所で、農業による収入も充分ではありません。ですが、人々の素朴な暮らしと暖かさは、かえて本当の意味での「豊かな」生活ともいえます。

サンイシロでは、プレスクールの見学、住民との交流会、ホームステイ、農場の見学などを行います。



電気も水道もガスもないサンイシロ

日程：A：2月28日(金)～3月10日(月) (サンイシロ・パヤタス訪問)

B：3月20日(木)～26日(水) (パヤタス訪問)

料金：A：14万円 B：18万円

企画協賛：(特活)アジア日本相互交流センター(ICAN)

ツアーでは、サンイシロやパヤタスに関するレクチャー、ICANの支援プログラムの見学、現地の住民達と交流会やホームステイをします。食べていくのが精いっぱい環境の中で、暖かさとかまじさを失うことなく生きているフィリピンの皆さんや、現地で支えるスタッフに会いに行きませんか？

ご興味のある方は、ICAN事務局までお問い合わせ下さい！

(社)全国旅行業協会正会員 愛知県知事登録旅行業第2-1006

受託販売：

(株)トラベルステーション

名古屋市中区錦2丁目8-24 木材10階

TEL052-232-8555 (FAX 8558)

営業時間/平日：午前9:00-午後6:00 土曜日：午前9:00-午後3:00 (日・祝日休み)

(社)日本旅行業協会正会員

国土交通大臣登録旅行業第1502号

LATA公認代理店

主催：(株)ケイ・アイ・エス・  
インターナショナル

名古屋市中区栄4-18-16 NEW BLD 3F

## << 会員になって ICAN の活動を支えよう! >>

(ICAN の活動は会費と寄付金で支えられています。事業会費・事業寄付金は 15~20 %が運営費、その他が事業費となります。正会費、運営寄付金は運営費となります。)

### 里親支援

ミンダナオの子ども達の通学を 1 対 1 で支援します。学費・学用品・養育費等を援助します。(年会費 1 万 8 千円)

### 給食支援

ミンダナオの少数民族の小学校 3 校で、栄養不良児に給食を提供しています。(年会費 6 千円)

### パヤタス支援

パヤタスごみ処分場周辺の住民への医療および職業訓練支援(年会費 6 千円) 医療会員と職業訓練会員とがあります。

### サンイシロ支援

山村で少数民族の子ども達の教育支援や家庭内植林などを支援します。(年会費 6 千円)

### ICAN の活動全般を支える正会員 維持会費 1 万円、一般会費 3 千円

ICAN 全般の活動をご支援いただく正会員です。事務局やマニラの人件費、通信費、会報印刷費など、どうしても必要な運営費、ICAN の基盤作りにご支援ください。

## クリスマス & 年末年始募金に御協力ください!!

クリスマスツリーが華やかに街を彩る季節となりました。今年も皆様にご協力を頂き、フィリピンの人達を励ます活動ができました。心より御礼申し上げます。

来年も、より多くの現地の皆さんを励ますことができるように、クリスマス & 年末年始募金を行っております。クリスマスや新年を迎えられる私達の喜びを、現地の方々と分かち合えたら、と思います。皆様の優しさや愛情を現地の人々を支える活動に分けて頂けませんでしょうか?

募金は、フィリピンでの支援活動の他、日本の子ども達への国際理解教育、活動を支える運営費にも使わせて頂きます。

ご送金いただける方は、以下の振替口座まで、ご送金ください。

**郵便振替口座 NPO 法人 ICAN 口座番号 00850-6-78233**

通信欄に、クリスマス & 年末年始募金とご記入ください。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

